

公開講座「イケニエの民俗史 人柱伝説にみる人と自然との関係」開催

文化学部 第2回北方文化フォーラム

文化学部では、7月12日(木)に「イケニエの民俗史 人柱伝説にみる人と自然との関係」をテーマに公開講座を開催します。

国内外の多彩なジャンルから講師を招き、文化に関する旬の話題を学ぶ公開講座「文化学部北方文化フォーラム」の今年度第2回目として行います。

日本の各地には、人身御供や人柱といった、人を儀礼的に犠牲にし、それによって共同体の安定的存続への効果を得ようとする、いわゆるイケニエの物語が伝えられています。しかも、それらはそれぞれの地域において、犠牲となった者の遺品やそれに関わる遺物を伝えたり、犠牲者の供養や顕彰のための祭りをを行うなど、今日においても地域の負の歴史としてリアルに語り継がれてきています。人々はなぜそのような恐ろしい物語を伝えてきたのか。人柱伝説を中心に、イケニエの民俗を支えてきた精神史を探っていきます。事前申込は不要、受講料無料です。

演 題：「イケニエの民俗史 人柱伝説にみる人と自然との関係」
講 師：六車 由実氏（東北芸術工科大学准教授・東北文化研究センター研究員）
日 時：7月12日(木) 18:00～19:30
場 所：札幌大学 2号館 2207教室
(札幌市豊平区西岡3条7丁目3-1)
問合せ先：札幌大学学生支援オフィス 文化学部担当 TEL:011-852-1181(代表)

【講師プロフィール】

1970年、静岡県生まれ。大阪大学大学院文学研究科単位取得退学。研究テーマは「“いけにえ”や“焼畑”というテーマを中心に、自然のなかで生きる人の営みについて考える」。また、学生とともに民俗映像の制作を行うことを通して、若い世代が伝統や民俗にかかわっていくための新たな可能性を模索している。主な著書は『神、人を喰う 一人身御供の民俗学一』（2003年第25回サントリ学芸賞 思想・歴史部門受賞）など。

